

2022年度 春季 国内体験学習プログラム【福島スタディツアー】の応募について

1. プログラムタイトル

「福島スタディツアー」～福島の“今”を見、福島を生きる人々の“言葉”を聴き、そして“自分”を見つめる～

2. 趣旨・目的

ボランティア・NPO 活動センターが実施する国内体験学習プログラムは、学生が、該当地域の地域住民や NPO／NGO との交流を通じて、国内におけるその地域の抱える問題に触れ、より深く社会の問題について考え、その問題解決に向けて自身の問題として考えるきっかけを作ることを目的としています。

この「福島スタディツアー」は、2015 年度より開始しました。福島県は、東日本大震災の発災によって巨大地震と津波、原発事故という人類史上初の複合災害に直面し、想像を絶する甚大な被害を受けました。今回は、福島県の南相馬市、福島市、浪江町等の被災した地域を訪問し、フィールドワークを行います。その中で、震災遺構の見学や市民団体の方からヒアリングを行い、福島の抱える課題を知り、考え、体感できる機会をつくります。自分自身の五感をフルに使って“今”を見、そこに生きる人々の言葉を受け止め、自分自身の問題として、福島を見つめてみてください。この経験はきっと、自分自身を取り巻く社会問題について考えるきっかけになると思います。

3. 開催日程

(1) 事前説明会 I 2023年2月3日(金)(深草・和顔館B106) 10:30~12:00

(2) 事前学習会 II 2023年2月7日(火)オンライン 10:30~12:00

(3) 福島訪問 2023年2月21日(火)~25日(土)

2月21日(火)の8:00に京都駅八条ロバス乗り場を出発

2月25日(土)の8:00頃に京都駅八条ロバス乗り場に到着する予定。4泊5日(車中泊1泊)

(4) 事後学習会 2023年3月8日(水)10:30~12:00(深草・和顔館B106)

(5) 活動報告会 2023年4月開催予定

日程	主に予定している内容	※変更になる可能性有
2月3日(金)10:30~12:00 (深草・和顔館B106)	事前学習会 I	
	①福島のスタディツアーに関する事務連絡とスケジュールの説明 ②東日本大震災における福島の被害についてミニレクチャー	
2月7日(火)13:30~15:30 (オンライン)	事前学習会 II 大熊未来塾 木村紀夫さんのお話 【帰還困難区域からオンラインツアー】	
2月21日(火)~25日(土)	福島スタディツアーのスケジュール	
	1日目: 京都から福島への移動(大型バス)	福島市泊
	2日目: 福島市内の農園を訪問した後、南相馬市へ移動。 南相馬市社会福祉協議会を訪問して、職員の方からのヒアリングや、 地域の方と交流 など	南相馬市泊
	3日目: 震災関連施設等の見学、 サポートセンターぴあ 青田代表理事の話 など	南相馬市泊
	4日目: 小高パイオニアヴィレッジを訪問し、(株)小高ワーカーズベースの 和田代表の講話 双葉郡周辺を案内付きでフィールドワーク いわき市内の温泉で夕食と入浴後、京都へ移動	車中泊
5日目: 京都着・解散		
3月8日(水)10:30~12:00 (深草・和顔館B106)	事後学習会 全体のふりかえり、活動報告会について	
4月下旬	活動報告会 (詳細未定)	

4.移動手段 大型バス(京都～福島の長距離移動及び福島県内の移動)

5.参加費 20,000円 ※京都の集合場所から福島までの移動費、宿泊費、保険代、入館料、プログラム参加費、食費(一部)が含まれています。

6.募集人数

定員 16名 ※参加希望者が募集人数を超えた場合は選考を行います。

7.参加条件 ※以下のすべての条件を満たすことが参加の条件となります。

- 1) 本学に在学する学生(学部生、短期大学部生)であること
- 2) 集合場所から解散場所まで同一行動をとること
- 3) 保護者もしくは保証人の参加同意を得ること(参加誓約書および同意書を提出)
- 4) 引率者の指示に従った行動をすること
- 5) 事前、事後学習会に参加すること
- 6) 事後レポートを提出すること
- 7) 活動報告会に参加すること(2023年4月に実施を予定)
- 8) 2023年2月20日(月)の午前中に、新型コロナの抗原検査を実施し、「陰性」であること(陰性陽性問わず、結果をセンターに連絡すること)
- 9) センターが行う新型コロナウイルス感染症予防対策に従うこと

★以下に該当する場合、参加することは出来ません。

- ① 単位の取得を目的とした当プログラムへの参加
- ② 新型コロナウイルス感染症の感染の可能性がある場合
 - 抗原検査陽性の場合、症状の有無にかかわらず参加することができません。了承した上で申込をしてください。
 - たとえ陰性であったとしても、発熱などの体調不良が生じている場合は、参加することはできません。
 - 濃厚接触者等で自宅待機期間中の人は参加することができません。

8.感染予防の対策について

- 1) 活動期間中は、健康チェックシート(検温結果と体調を記入するシート)への記入し、引率者の確認を受ける。
- 2) 手指の消毒、マスク着用、黙食等を徹底する。
- 3) 宿泊はツイン又は、シングルルームを使用します。
- 4) 参加直前の健康状態に留意し、健康に不安がある時には医師に相談したうえで、参加をするようにしてください。

9.応募方法・期間

2022年12月1日(木)～12月12日(月)17:00まで(時間厳守)

国内体験学習プログラム応募フォームに必要事項を記入して送信してください。

※申込フォームは、センターHPにも掲載されています。

※送信後、応募内容がメールの自動送信で届きます。もし届いていない場合は、センターへ応募状況を問い合わせてください。

★応募フォーム記入の注意点

- ① 必須項目については全て記入しないと応募できません。
- ② プログラムに参加する上で、相談しておきたいことや確認したいことがあれば、直接センターに来室するか、申込フォームに記入してください。長距離移動を伴い、体力的にはハードな部分がありますので、特に体調面で不安がある場合などのご相談ください。



申込フォーム

③応募者多数の場合は、応募動機で選考します。必ず 200 文字以上の文章で記入してください。

10. 参加可否通知

12月19日(月)12:00にポータルで個別に通知します。必ず結果を確認した上で12月21日(水)13:00までに必要事項を指定のフォームで回答してください。※連絡が取れない場合、キャンセルとみなす場合があります。

11. 参加費の支払いおよび誓約書・同意書の提出について

2023年1月6日(金)~2月3日(金)の事前学習会Iまでに、証明書自動発行機にて参加費を入金し、発券された「龍谷大学 各種申込書」と、「誓約書・同意書」(参加の可否を連絡した際に添付されていたシートをダウンロードしてください)に保護者あるいは保証人による同意のサインをもらったうえで、必要事項を記入し、事前学習会Iで提出してください。

●証明書自動発行機の設置場所

- ・深草キャンパス 学部教務課フロア、21号館1階ロビー、紫光館エントランスホール
- ・瀬田キャンパス 1号館1階エントランス、社会学部教務課フロア、農学部教務課フロア
- ・大宮キャンパス 西翼1階ロビー(講師控室前)

※証明書自動発行機の運用可能時間は、設置場所によって異なります。龍谷大学 HP で証明書発行機スケジュール (<https://pecorino.ws.ryukoku.ac.jp/sys/info/shomei/index.php>) の確認をお願いします。

※大阪梅田キャンパスの証明書自動発行機では入金できません。

12. 事後レポートの提出について

参加者には活動後に実施するアンケートへの回答と、以下の2つの報告書掲載のためのレポートと写真データ(2枚)の提出を求めます。

- ①春季体験学習プログラムの報告書(1300字程度)
- ②ボランティア・NPO 活動センターの報告書(400字程度、①の要約で可)

●提出方法:メールに添付して送信

●提出期限:2023年3月20日(月)13:00 締切

13. 活動報告会について

今回のスタディツアーに参加して、「学んだこと」、「知ったこと」、「考えたこと」を参加者だけの体験にするだけでなく、自分自身の言葉で語り、広く学内で共有するために報告会を実施します。

- ・2023年4月下旬に開催(予定)
- ・参加メンバーで相談し、報告内容をまとめる。
- ・開催方式は、相談して決定
- ・2023年3月の卒業する学生は、活動報告会への出席は必須ではありませんが、資料作成への過程には参加するようしてください。

14. 主な訪問先予定は次の一覧通りです。ぜひ、団体のHPなどもチェックしてみてください。

以上

主な訪問先予定一覧

(1)特定非営利活動法人 うつくしまランチ

すべての垣根を越え、元気で楽しい「何か」に出会える「ふくしま」のまちを創造し、活性化させていくために住民・行政・クリエイターが個人や企業の垣根を越え、さらに知恵を出し合いながら、イベントなどを実施している NPO 法人です。こちらの代表理事である渡辺さんと理事の掃部さんからお話を伺います。

(2)阿部農園

福島市内にある梨農家さんから話を聴きます。2015 年以来、毎回訪問しています。福島第一原子力発電所の事故による放射能の除染モデル事業で畑の表土を 5cm 剥がし、山砂と入れ替える作業や除染のための粗皮(そひ)削り作業に取り組みました。この農園では、国の基準値よりも、より厳しい検査を行って商品を出荷するなど、安全な食べ物を消費者に届けるための試行錯誤に日々取り組んでいます。

(3)社会福祉法人 南相馬市社会福祉協議会

社会福祉協議会は地域福祉に取り組む社会福祉法人です。災害時には、被災者支援などの役割を担うことも多く、全国各地の自治体に 1 社協があります。南相馬市社会福祉協議会は、従来の社会福祉協議会の業務の他に仮設住宅巡回訪問をはじめ、被災者の生活を支えるための生活支援員育成なども積極的に行っています。

今回は、地域福祉課の佐藤課長にお話していただく予定です。また、地域づくり活動に参加されている地域住民の皆さんとも交流をする予定です。

(4)震災遺構 浪江町立請戸小学校

福島県双葉郡浪江町にある、海から約 300m のところに位置する小学校。海から約 300m のところに位置する小学校。東日本大震災の津波に襲われ、校舎 2 階まで浸水しましたが、震災時、当時通っていた児童 93 名（内 1 年生 11 名は帰宅していた）は、教職員の迅速な判断と児童の協力により、津波に直撃されながらも、奇跡的に全員が無事に避難できた。その学校が震災遺構として、2021 年 10 月より公開されています。

(5)特定非営利活動法人さぽーとセンターぴあ(デイさぽーと ぴーなっつ)

特定非営利活動法人さぽーとセンターぴあは、「断らない」を合言葉に障がい者の生活介護、就労支援事業に取り組んでいる団体です。東日本大震災の時、福島県南相馬市では災害弱者の安否を確認するために、市の個人情報保護条例の特例を適用し、障がい者の個人情報を開示しました。障がい者の方は“避難しない”のではなく“避難できない”場合が多々あります。その情報開示に当たり当局との折衝に力を尽くされたNPO法人さぽーとセンターぴあ理事長の青田由幸さんにお話を聞きます。著書「原発震災、障害者は…消えた被災者」(八幡隆司氏と共著)

(6)農家民泊いちばん星

元、南相馬市職員で、震災を機に市役所を退職し、多くの方々のご縁を大切に想い、被災者・支持者の枠を超え、「縁を響かせたい」との願いを込めて、里山・農家民泊を開業しました。この宿を見学した後、ご主人の星さんに南相馬市内を案内していただきます。

(7)株式会社小高ワーカーズベース

5年4か月もの間居住が許されなかった南相馬市小高区で、町に、暮らしを再構築していくために、『地域の 100 の課題から 100 のビジネスを創出する』というミッションをかかげ、様々な事業を立ち上げている株式会社小高ワーカーズベースの代表取締役の和田智之さんのお話を伺います。

現代社会は予測不能だからこそ、どんな状況からでも可能性を見出し、欲しい未来を実現する。そんな風土をこの地域から生み出すためにチャレンジを行っている会社です。その取り組みは多くのメディアで取り上げられ、注目を集めています。

(8)F スタディツアー【いわき湯本温泉 古滝屋】

いわき市にある老舗の温泉旅館 16 代目館主 里見喜生さんが開催しているスタディツアー。被災者として、そして被災者を支援する側として、両方の立場を経験していく中で、被災者だからこそ感じた思い、伝えられる言葉があることに気づき、そこから震災の教訓を学び、未来へつないで欲しいという願いから、被災地を案内する「F スタディツアー」というガイドプログラムを立ち上げました。原子力災害で大きな被害を受けた双葉郡を中心に、案内していただきます。